

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年1月31日

協議会名: 女川～江島航路確保維持協議会

評価対象事業名: 離島航路運営費等補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
シーパル女川汽船株式会社 女川～江島航路	女川町の離島である出島・江島と町中心部を結ぶ航路として、女川～出島～寺間～江島間を1日3便運航。利用客は、通院や買い物利用の島民や、復興事業に携わる作業員が中心となっている。	<p>【前回の評価結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出島架橋完成後の運航体制について島民へのヒアリング等準備を進めること。 ・代替船建造について小型化等の検討を含め計画的な更新に向け関係機関と調整すること。 <p>【評価結果の反映状況】</p> <p>出島架橋完成後の運航体制について、住民アンケートや島民との意見交換会を実施し、今後の在り方について議論を重ねた。</p>	B 平成24年1月から1日3便運航を行っている。震災の影響による人口の流出により、震災前は約600人程であった島民人口は、現在推定80人程である。今後も人口の動向等を注視しつつ、適切な便数による運航等の検討が必要である。	A 当初は、主に復興関連事業従事者の利用予測が困難であったことから、年間利用人員を12,932人と見込んでいた。実績で13,027.5人と見込みを若干上回ることができた。	震災によって流出した島民人口の回復が必要不可欠である中で、出島架橋の整備が決定したことによる影響は大きいと考えられる。出島架橋整備の進捗や島民人口の回復状況、利用者の要望等を踏まえ適切な運航体制の整備等を検討する。2025年に予定される出島架橋完成後の運航体制についても今後検討を開始するにあたり、島民へのヒアリング等準備を進めていく必要がある。